



# Weekly Market Report

Apr 30, 2024

FX, JPY Interest Rate, Topics

## 1. 為替相場概況

ドル円は34年ぶりに一時160円台を示現。その後は為替介入と思われる円買いにより急落

### USD/JPY (1週間の値動き)



### コメント

先週のドル円相場は日銀会合後に円安ドル高が進行した。週初は154円台半ばでスタートし、週央にかけて155円台半ばへ緩やかに上昇。週後半、日銀会合を機に円安進行し、157円台後半まで上昇した。日銀会合の結果は、事前予想通り政策金利に変更なかったものの、円安に対する懸念が示されなかったことや長期国債の買い入れ方針変更がなかったなど、ハト派色を嫌気する形で円売りが進行した。昨日は東京市場が休場となる中、海外勢主導で急速に円安進行し、ドル円は34年ぶりとなる一時160円台を示現。午後に入ると、為替介入と思われる円買いが見られ、一時155円台前半まで急落。神田財務官はノーコメントと発表し、介入の有無については明言しなかった。その後は値動きが荒い展開が続く、足元156円台で推移している。今週はISM製造業指数、FOMC、雇用統計など重要イベントが多く控える。FOMCで追加利上げの可能性が示唆されるようであれば、ドル高円安がさらに進行する可能性が高いと考える。(市場営業部/堀)

### 今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
4/30(火)	(米国) 消費者信頼感	104
5/1(水)	(米国) ISM製造業景況指数	-
5/1(水)	(米国) FOMC	-
5/3(金)	(米国) 雇用統計	-
5/3(金)	(米国) ISM非製造業景況指数	52

### USD/JPY (5年間)



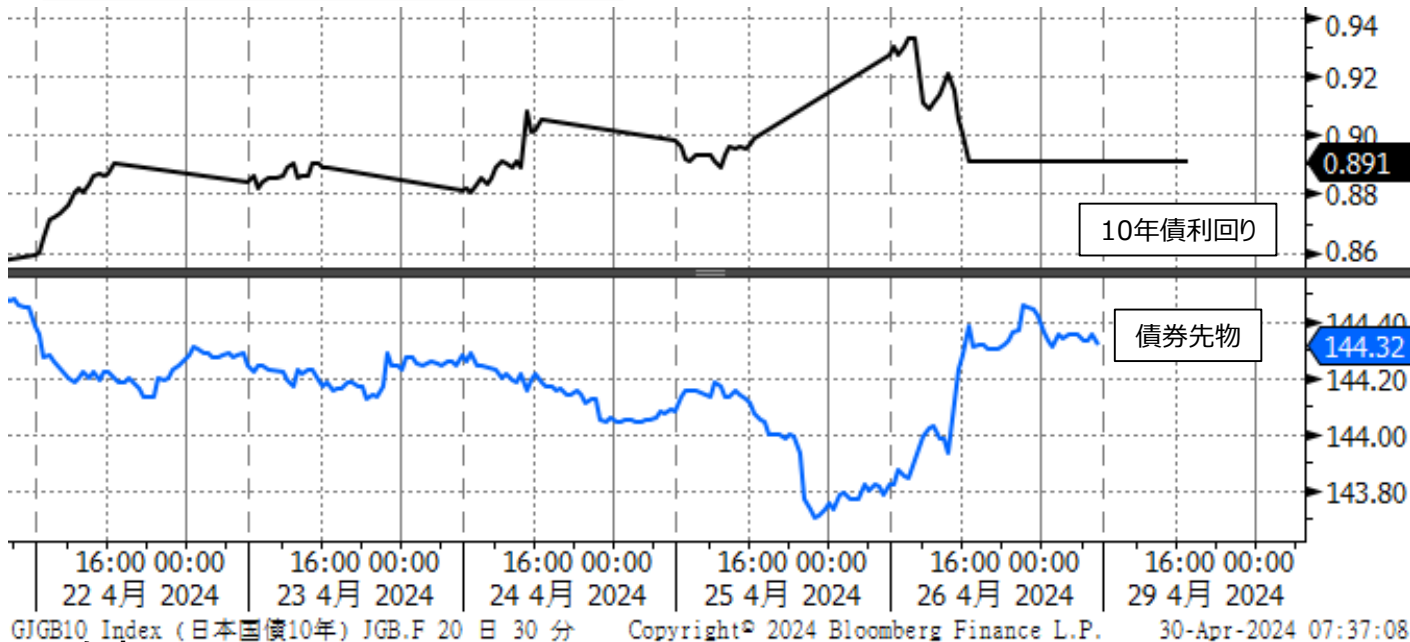
### 今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
鈴木万里子	155.50 - 160.30	FOMCでタカ派色強ければ日米金利差拡大がさらに意識され、再び160円まで戻す可能性も。
嵯峨大輝	155.30 - 158.90	月末フォローやFOMC、雇用統計を控え、神経質な動きに注意も、日米金融政策の違いから円安トレンドは変わらずか。

## 2. 円金利相場概況

先週の日銀会合はハト派な印象。今週はFOMCに注目

### 10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



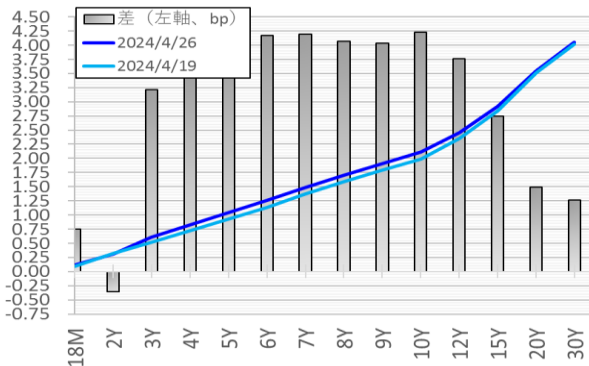
GJGB10 Index (日本国債10年) JGB.F 20 日 30 分 Copyright © 2024 Bloomberg Finance L.P. 30-Apr-2024 07:37:08

#### コメント

(出所) Bloomberg

22日は前週末に中東情勢を巡るリスクオフの巻き戻しで米金利が上昇したことで売りが先行した。また、週初には今年度上期の各社生保運用計画が公表され、30年国債の買い目線を利回り2%に引き上げる向きが多かったことが意識されたのか、超長期債の買い控えにつながった。25日、円相場で1ドル=155円台に下落したことを受け、早期の利上げ期待が高まり売りが先行。ただ、その後は日銀金融政策決定会合を控えた警戒感からかもみ合いで推移した。26日の日銀金融政策決定会合では市場予想通り、無担保コール翌日物金利の誘導目標を0~0.1%程度に据え置いた。長期国債の買入れ額についても、植田総裁は会見で現状と同程度の国債買入れ額を続けることを改めて強調。10年国債金利は0.92%で終了した。今週は本邦連休の中、米国で複数の経済指標の公表やFOMCを控えており、米金利高止まりが意識されれば日米金利差が拡大する可能性もあるため注目である。（市場商品部/金利MMG）

### 金利スワップ変化（1週間）



### 10年円金利スワップ推移（5年間）



### 今週のレンジ予想（10年国債利回り）

(出所) Bloomberg

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
加藤祐樹	0.84% - 0.94%	今週は米雇用統計の発表やFOMCなど、重要イベントが目白押し。国内連休で閑散の中、ボラティルな円債市場を予想。
亀田則子	0.85% - 0.97%	国内は日銀による国債買入れの減額への警戒感が続き金利低下しにくいとの見方。米国はFOMC等イベントが多く注目したい。

### 3.今週のトピックス

#### ～銅市場アップデート～

銅相場は中国精錬業者の減産や銅鉱石・精鉱の供給不足などを背景に、円建てベースでは4月18日に150万円/MTを超え過去最高値を更新している【図1】。本稿では銅価格上昇要因となっている足元の需給バランスについて確認してみたい。

3月中旬に中国非鉄金属の業界団体である中国有色金属工業協会が会合を開き、銅精錬会社が既存精錬設備の保守点検計画の見直しや生産ペースの引き下げ、生産能力の増強計画の延期、生産目標達成計画の後ろ倒しなど、実質的な減産で合意した。銅の加工工程では、銅の品位が0.1%～2%程度の銅鉱石から不純物を取り除き、品位を20～35%まで分離・濃縮したものを精鉱と呼ばれている。その精鉱が精錬工程を経て品位を99.99%程度まで高めた銅地金が作られる。今回の異例の減産の背景には、精錬所の生産能力に対して上記の品位20～35%である銅精鉱の供給不足により精錬所の稼働率が低下し、精錬所の利益（溶錬・精錬費用）が急落したことが主因となっている。加えて不動産開発やインフラ建設向けの需要の落ち込みによる銅製品の需要縮小も影響を受けている模様だ。

中国は経済成長に伴う電力インフラ整備や不動産開発などによる銅需要の拡大により、銅鉱石・精鉱の輸入量が2010年台初めより増加傾向を辿った。銅輸入量は2010年から年率平均で+11.6%の伸び率となり、市場拡大とともに精錬会社は生産能力の拡大に邁進した【図2】。2023年の同国の銅製品生産量は前年比13.5%増加し、過去最高の1,229万トンに上った。これは世界約5割近くの銅生産量に相当する。

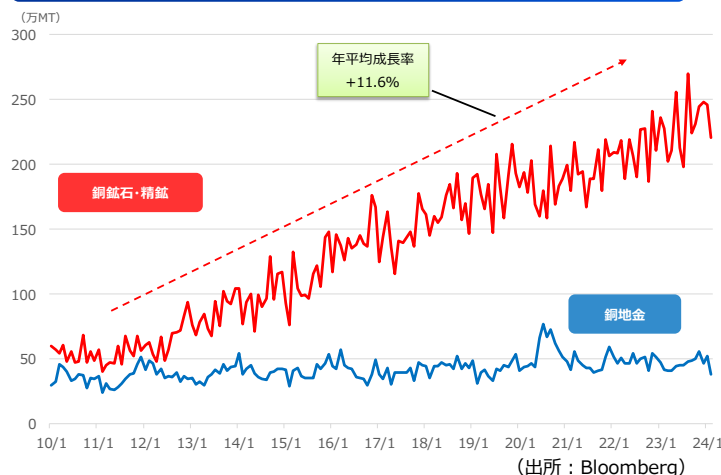
しかし、銅鉱石・精鉱の供給事情は昨年後半から一変。環境破壊などへの抗議活動を受け、世界の銅鉱石生産量の約1.5%（年間生産量約40万トン相当）を占めていたパナマの銅鉱山の閉鎖が2023年11月に決定された。また、英鉱業大手アングロ・アメリカンは2024年の銅生産目標を73万～79万トンと、従来計画の最大100万トンからの引き下げを発表した。

上記の要因もあり銅鉱石・精鉱の供給不足感が強まり、溶錬・精錬費用の水準は昨年後半の\$90から足元では9割下落した条件となっている。また、4月中旬には米国と英国の両政府がロンドン金属取引所とシカゴ・マーカントイル取引所でのロシア産アルミ、銅、ニッケルの新規取引の禁止、両国への輸入禁止を協同で発表。ロシア産銅は世界の約4%の銅供給量があるため、更なる供給懸念が強まっている【図3】。銅サプライチェーンの上流での供給逼迫の長期化が懸念される中、銅価格の堅調な地合いが想定されよう。（市場営業部/木田）

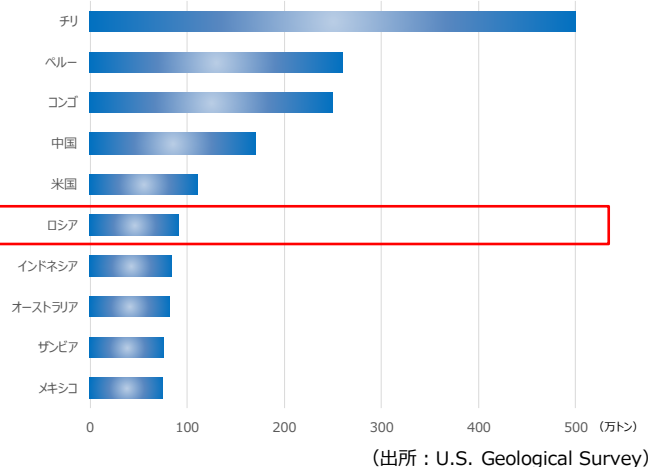
【図1】LME銅価格の推移



【図2】中国の銅鉱石・精鉱、地金の月次輸入量



【図3】上位10か国の銅鉱石生産量



## ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）  
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会